

1. 次の () の中に適当な語句を記入しなさい。(配点10点)
- 天然繊維の中では、(絹)の繊維が最も長い。
 - 糸は、撚る方向によって右撚りと左撚りに区分され、左撚りのことを(Z撚り)ともいう。
 - 糸の太さは、糸の長さ重量の関係によって表示され、(デニール)と番手法がある。
 - 繭から引き出した一本の生糸は、日本のフィブロインとそれを包む(セリシン)からなる。
 - 経糸と緯糸の異なる素材で織った織物を(交織織物)という。
 - 打掛の下に締める帯は(掛下帯)である。
 - 男子の正装用の帯は(角帯)である。
 - 髪置きの祝は、(三)歳の祝である。
 - お宮参りの初着の袖は、(大名袖)である。
 - 有松絞り、博多絞りは、主として、(綿)布に絞られる。

2. 次の織物の産地の県名を () の中に記入しなさい。(配点10点)
- 紅花紬(山形)
 - 塩沢お召(新潟)
 - 郡上紬(岐阜)
 - 白山紬(石川)
 - 唐棧縞(千葉)
 - 仙台平(宮城)
 - 黄八丈(東京)
 - 結城紬(茨城)
 - 佐賀錦(佐賀)
 - 丹後縮緬(京都)

3. 次に挙げる左側の語句のふりがなを () の中に記入し、右側の説明文で関連のあるものを線で結びなさい。(配点10点)
- 衣冠(いかん) 1. 平安時代公卿の日常着である。
 直衣(のうし) 2. 宿直装束ともいい、束帯の略装である。
 素襖(すおう) 3. 女官の正装で女房装束或いは、十二単ともいう。
 晴装束(はれしょうぞく) 4. 形は、大紋と同じであるが紋のないものをいう。
 直垂(ひたたれ) 5. 武士が鎧下に着用したもので、後に武士の公服となった。

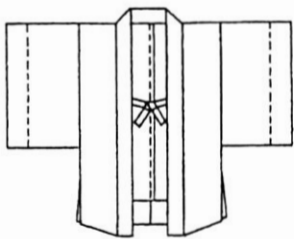
4. 下の表は、和服の紋下りを記したものです。表を完成させなさい。但し、cm又は鯨尺でもよい。(配点5点)

名称	本裁男女	四つ身	一つ身
背紋下り (衿付けより)	5.7cm 1寸5分	4.5cm 1寸3分	4cm 1寸
袖紋下り (袖山より)	7.5cm 2寸	6.5cm 1寸7分	6cm 1寸5分
抱き紋下り (肩山より)	15cm 4寸	13cm 3寸5分	11cm 3寸

※鯨尺の解答寸法は日本和裁士会の教科書に準じています。

5. 次の説明文の () の中に最も適当な寸法を記入しなさい。(配点5点)
- 身長170cm(4尺5寸)の男子用袴の紐下寸法は(85~88cm(2尺2寸4分~2尺3寸5分))位が適当である。
 - 身長155cm(4尺1寸)の女子用袴の紐下寸法は(90~93cm(2尺3寸8分~2尺4寸5分))位が適当である。
 - 身長170cm(4尺5寸)の男子用仕舞袴の相引寸法は(37~44cm(9寸8分~1尺1寸6分))位が適当である。
 - 男帯(角帯)の帯丈は(4.0~4.2cm(1丈0尺5寸~1丈1尺0寸))である。
 - 女袴のひだ数は、前5つ、後(3つ)が一般的である。

6. 下記の図は、十徳ですが、羽織との相違点を4つ記しなさい。(配点4点)



- 広袖
- 角袖
- 衿を折り返さない
- 襷無しか襷を付ける
- 共紐である
- 定紋無し
- 薄物で単衣である。男子のみ着用

7. 被布と被布衿コートの大相違点を3つ記入しなさい。(配点3点)

- 被布は室内で着用できる。被布衿コートは外出着。
- 被布には襷がつく。被布衿コートは襷無し。
- 被布は縦衿の縫目片返し。被布衿コートは縦衿縫目割縫い。
- 被布は縦衿と小衿の間を開ける。被布衿コートは衿型により自由

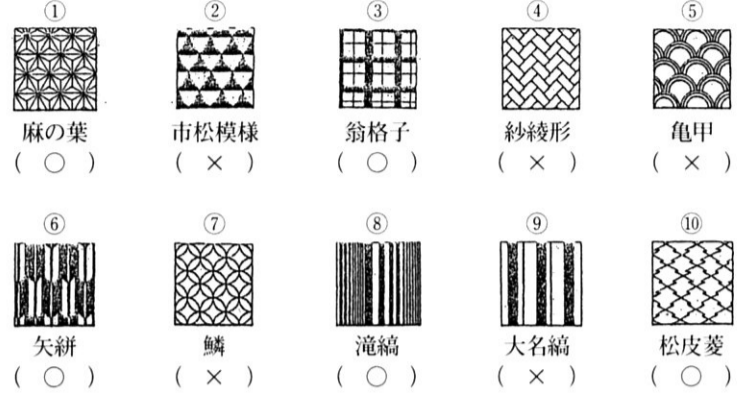
8. 男物襷付袴(馬乗袴)と男物仕舞袴の相違点を3つ記入しなさい。(配点3点)

- 男物仕舞袴は腰板が木製。
- 男物仕舞袴は相引きが低い。
- 男物仕舞袴は襷高が高い。
- 1のひだの奥が浅く、ひだのすぐ内側をとじつける。
- 後ひだは袋ひだにせず、片ひだとする。

9. 和服の寸法と身体各部の寸法の関係について、下の例にならって記入しなさい。(配点5点)

- 《例》本裁女物長着の身丈 → 身長と同寸を基準とする。
- ①本裁女物長襦袢の身丈 → 身長-27~30cm 又は 身長×0.8~0.83を基準とする。
 - ②本裁男物長着の身丈 → 身長-26~27cm 又は 身長×0.83~0.85を基準とする。
 - ③本裁女物長着のゆき → 身長×0.4+2cmを基準とする。
 - ④本裁女物長着の裾下 → 身長×1/2を基準とする。
 - ⑤本裁女物長着の衿肩明 → 首のつけ根回り×1/4を基準とする。

10. 下記の模様の中で語句が正しいものには○を、誤っているものには×を () の中に記入しなさい。(配点10点)

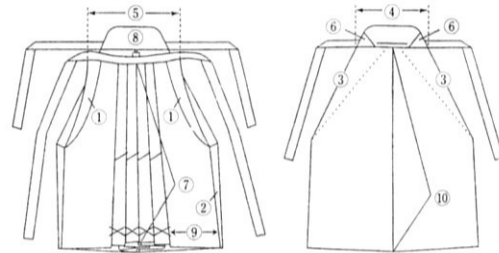


11. 帯に関する次の説明文の () の中に適当な寸法を記入しなさい。(配点5点)

- 胴回り104cm(2尺7寸4分)の女性の名古屋帯の手丈は(282~284cm(7尺4寸5分~7尺5寸))位にするといふ。
- 名古屋帯の垂柄中心は、垂先より約(68cm(1尺8寸))位にする。
- 掛下帯の帯幅は、(26.5cm(7寸))位である。
- 名古屋帯ポケット口中心は、手先より(100cm(2尺6寸4分))位である。
- 丸帯・袋帯は普通帯幅は30~32cm(8寸~8寸5分)位で、帯丈は(4.1~4.3m(1丈6寸~1丈1尺4寸))位である。

12. 男袴を前から見た場合と、後ろから見た場合の完成図を描き、下記部分がよくわかるよう、それぞれの所定の位置に記号を入れなさい。(配点：図5点、名称5点)

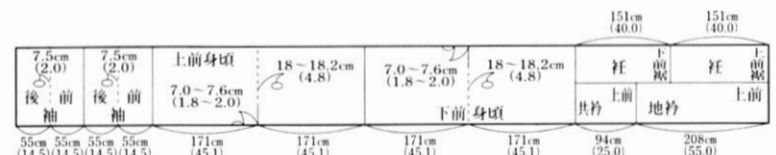
- 笹ひだ
- 相引
- 投げ
- 後腰幅
- 前腰幅
- 付菱
- 紐下
- 裏腰
- 前脇幅
- 後丈



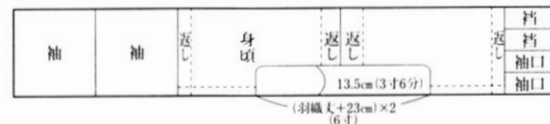
12. 次の5問について、その裁ち方を図解し、各部名称をよくわかるように記入しなさい。また各部は、寸法に応じて配分して裁ち切るところを実線で示しなさい。

- (1) 並幅物12m08cm(3丈1尺9寸)の反物で五つ紋付本裁女物長着を下記寸法で追い裁ちしたい。裁断図と紋の位置及び各部の寸法を記入しなさい。(配点4点)

身丈背より出来上り161cm(4尺2寸5分)・袖丈出来上り51cm(1尺3寸5分)・繰越3cm(8分)・裾下出来上り80cm(2尺1寸)、他は標準寸法とする。
 〈注〉上前身頃、上衿、上共衿、上前衿裾などの位置を明記し、紋の位置がよくわかるようにする事。



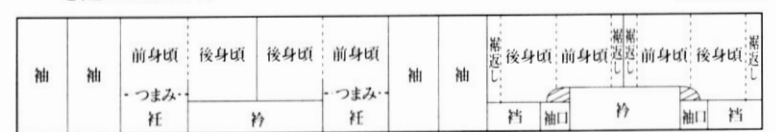
- (2) 並幅物6m(1丈5尺8寸)の表地で本裁女物給羽織を作りたい。裁断図を記入しなさい。ただし、衿寸法は、62.5cm(1尺6寸5分)とする。(配点4点)



- (3) 並幅物10m(2丈6尺4寸)の袴地で男物行燈袴を作りたい。裁断図を記入しなさい。(配点4点)



- (4) 並幅物12m50cm(3丈3尺)の表地で女児用四つ身の長着と羽織の裁断図を記入しなさい。(配点4点)



- (5) 並幅物12m(3丈1尺7寸)の表地で二部式雨コートを作りたい。裁断図を記入しなさい。(配点4点)

